

解説

# 推進専門業者としての 事前安全活動とリスク対策

むらた あつし  
村田 篤

㈱アルファビルエンジニアリング  
安全協議会 副会長

## 1 はじめに

令和2年までの労働災害統計からすると、図-1に示すとおり、ここ10年ほど建設業の死亡・死傷災害の発生件数はほぼ横ばいである。特に建設業においては、図-2で示すとおり、死亡災害発生件数では全産業の約3割を占め、依然として高水準で推移している。また、図-3で示すとおり、全産業において60歳を超える高齢

者が全体の25%を占める。10年前と比較すると、高齢者の死傷災害発生率は70%程度増加しており、特に躓き・転倒災害の増加が著しい(図-4)。

このような状況下で事業を行う立場としては、施工中の安全管理はもとより、現場乗り込み前の現地調査や元請企業との綿密な打合せ等による危険箇所の抽出、現状の交通環境を確認し、事前のリスク対策を講じる必要がある。

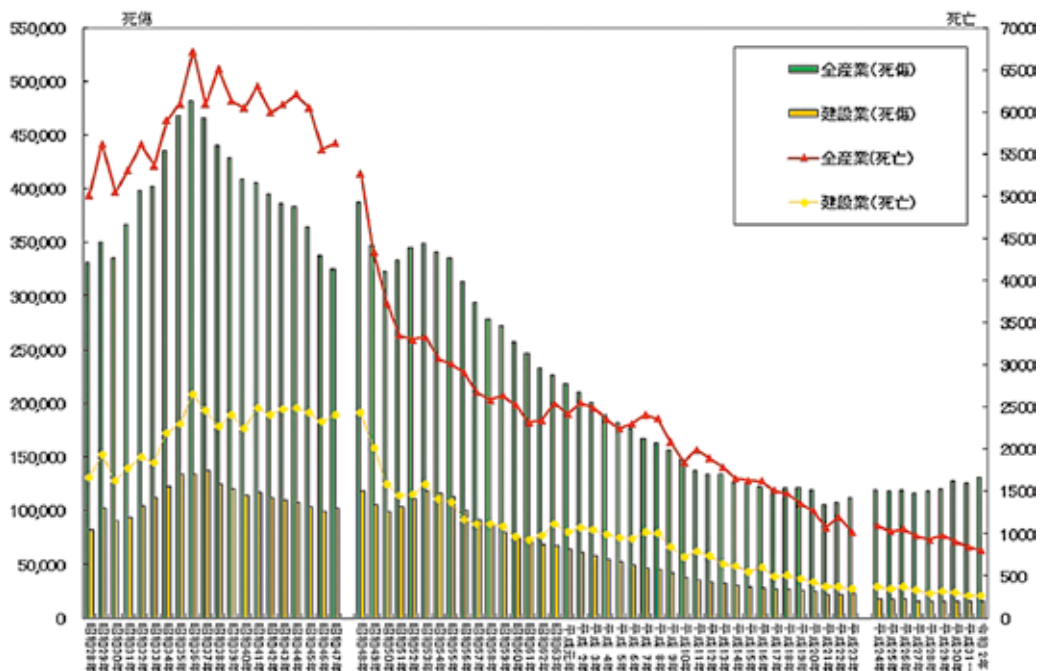


図-1 建設業の死亡・死傷災害の推移グラフ<sup>1)</sup>

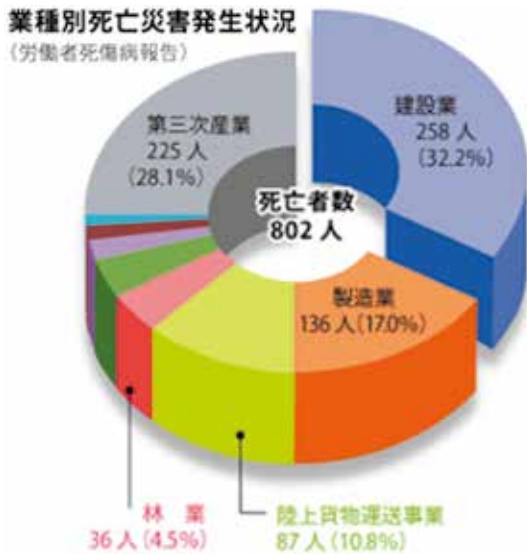


図-2 業種別死亡災害グラフ<sup>2)</sup>



図-3 全産業における高齢者の割合と死傷者<sup>3)</sup>

本稿では推進工事で想定される災害・事故に対して事前に対処できる内容、実施した対策、施工中の事業主パトロールや現場での安全協議会を中心に安全施工の基本について記す。

## 2 事前調査と対策工

現場乗込み前の現地調査においては、専門業者としても多面的な角度からの調査、確認が重要となる。表-1に確認事項と予測される危険について示す。

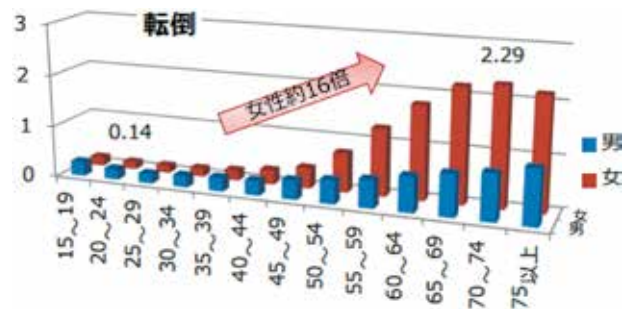


図-4 全産業における年齢別転倒災害グラフ<sup>3)</sup>

表-1 事前調査による確認事項と予測される危険

確認項目	内容	予測される危険
地形 標高	周辺の地形確認 周辺の河川確認	土質柱状図以外の土質の出現 河川氾濫時の立坑冠水による掘進機水没
架空線 樹木	発進や到達周辺の架空線と高さ、樹木の有無の確認 高圧線、通信（電話・インターネット）等	設備搬入時のクレーンによる接触 掘進機・推進管等の吊降し時の接触 門型クレーンを設置する際の支障
埋設物	立坑や推進管路のマンホールの確認（場所・高さ） 下水道管、水道管、電気、通信、ガス等	推進時の掘進機との接触 接触による掘進機、埋設物の損傷
車道 歩道	道路幅員、通行量の確認 車両搬入経路の確認	車両搬出入時の第三者災害 スクールゾーンの有無
家屋	立坑や管路周辺に近接する家屋等の確認 官民境界、既存クラックの確認	騒音等による公衆災害 振動等による家屋への影響